

祝 60周年

江戸川区歌

岡 久美子 作詞
清水 保雄 作曲

一 風もみどりの 香にあけて
かがやく朝の 太陽に
空もいらかも 晴れわたる
希望の都市よ わがさとよ
ああ 江戸川はあこがれの
夢がたのしく わくところ

二 古き伝統 誇りつつ
時代をきづく 生産に
若い力が ほとばしる
伸びゆく都市よ わがさとよ
ああ 江戸川は躍進の
鐘高らかに なるところ

三 あすの栄えに 新しき
文化をかかげ とこしえに
自治と自由を もりあげる
平和な都市よ わがさとよ
ああ 江戸川は人の和の
花もあかるく 咲くところ

昭和四十年九月制定

五中

小岩第五中学校校歌

平野多美子 作詞
大中 恩 作曲

一 みどりの土堤に 陽はみちて
水はきらめき 流れゆく
四季の香りは フレームに
いつもただよう 花の里
心ゆたかに すこやかに
のびゆくわれら 夢多く

二 はずむリズムも たからかに
うたうあかるい 空の下
理想にもゆる 瞳を交わし
語る青葉の かげの中
学びの庭に 幸あふれ
まどいはたのし 師と友と

三 手をとりゆけば 目もはるか
とわに光は さしている
平和の道を 創りゆく
使命をかたく 誓いあい
希望は今日も あたらしく
いそしむわれら 学びやに

昭和三十七年三月十日発表

四 世界に挑む 若人が

陸と水とで 競い合い
日々の努力で 高めゆく
誇れる都市よ わがさとよ
ああ 江戸川は未来への
きらめく虹の 立つところ

(平成二十八年一月
作詞者：葛西第二中学校三年一組六班)

江戸川区歌4番(オリパラ応援歌)

江戸川区歌は昭和40年9月に制定され、歌詞に区の良き環境、職住近接のまち、良き住民性が織り込まれ、さまざまな機会でも歌われ続けています。
一番は、晴れわたった空に太陽がさんさんと輝き、みどり豊かな美しい町並みとそこに住む市民の心がいつも楽しい夢にあふれている様子を描いています。
二番は、幾多の苦難の時代を乗り越え、今やまちのあちこちには活力がみなぎっています。家庭と職場は近く、生きる価値を高める豊かなまちの息吹を表現しています。

三番は、永い歴史から生み出された生活文化とお互いのしあわせを願う区民の心が一つとなり、みんなのふるさとにふさわしい、花のように明るく平和なまちになっていくと歌っています。

今回、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の気運を高めるため、「オリンピック・パラリンピック」や「スポーツ」、「健康」をテーマに、2020年までの期間限定で使用する区歌4番の歌詞が決定しました。

校歌の由来

PTA、同窓会、一般と広く校歌の作詞を募集し、集まった作品は約二十点、いずれも心のこもったものでした。

小岩第五中学校がある鹿骨町は「東京の花どころ」として有名です。四季折々の花が咲き、空気が澄んでいる街です。このきれいな環境を的確に表現した本校卒業生の保護者の平野多美子さんの作品が選考委員全員から入賞として推薦されました。作曲は音楽担任の土谷愛子先生の友人で、作曲家の大中恩氏に依頼して完成しました。

昭和37年3月10日、校歌発表会を行い、小岩駅から続く、花の里の地に「平和の道をつくりゆく学びや」の校歌として、生徒と教職員に歌い継がれています。

大中恩(おなかめぐみ)氏は、東京都生まれの日本の作曲家。1989年、紫綬褒章受賞。

1942年に東京音楽学校(現東京芸術大学)作曲科入学。1945年、同校卒業。

混声合唱曲「煉瓦色の街」(1965年、秋山和慶指揮・日本合唱協会)で芸術祭奨励賞を受賞。以後女声合唱組曲「愛の風船」(1966年)、男声合唱曲「走れわが心」(1968年)、混声合唱曲「島よ」(1970年)で芸術祭優秀賞を受賞。1982年は時代を超えて歌い継がれている「犬のおまわりさん」「サツちゃん」「おなかのへるうた」等を大成した「現代こども」のうた秀作選・大中恩選集」で日本童謡大賞を受賞。2004年童謡文化賞、2006年につげん小野童謡文化賞を受賞。